ブダペスト通信

盛田　常夫

2025 年 No. 20（6 月 19 日）

直近の世論調査結果

－ Tisza が 10 ポイントリード

マジャル・ピーテル 2025 年地方遊説（ケチケメート市、HVG 2025.06.19）

ハンガリーの政治情勢が流動化している。国立銀行総裁一家の横領事件のようなFidesz 政権のスキャンダル、オルバン一家の蓄財と贅沢三昧、Fidesz 政権の公共事業受注で焼け太った NER 企業所有者の豪勢な生活ぶりが反政府系メディアで連日報道されるなか、Fidesz 支持率に大きな変化は見られないが、マジャル・ピーテル率いる Tisza 党への支持の拡大が顕著になっている。

このため、Fidesz 政権は状況打開と現状の支持動向を見極めるべく、「ウクライナの EU 加盟反対」の疑似投票を実施している。インターネットを含めた各種メディアで「反対投票しよう」と呼びかける、なんとも不思議な投票キャンペーンを 2 カ月にわたって継続している。

最初の 1 か月で、100 万をわずかに超える「投票用紙」の返送しかなかったことに慌てた Fidesz 政権は、野党の活動家が投票用紙を盗んでいると主張し、電話での投票用紙の再送依頼やメイルでの投票を促し、二重三重の投票を重ねて 200 万の意見表明があったと主張している。これにたいして、野党はまさにラーコシ時代と同じ手法を使って、架空の世論を作り上げていると厳しく批判している。

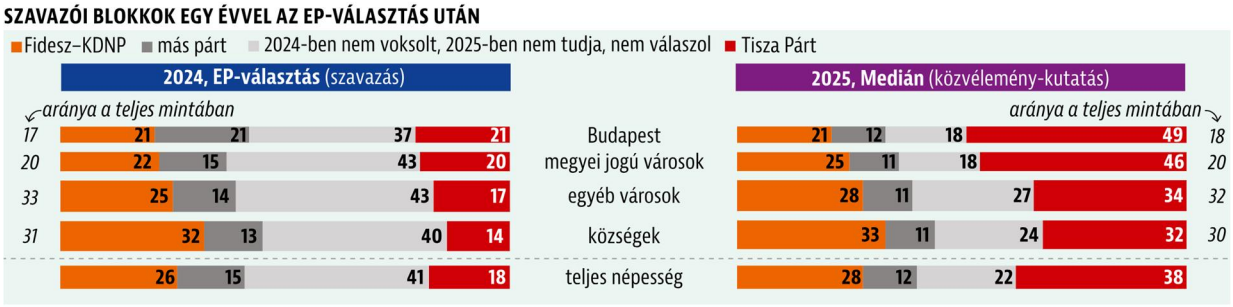
このところ、政府から補助金を受けている世論調査会社は調査結果を発表していない。Fidesz 政権の劣勢を報じたくないからである。そんなことをすれば、補助金が削減されるからだろう。

独立系機関の世論調査は、Fidesz 政権支持率が横ばいであるのにたいし、Tisza 党への支持は大きく広がっていることを示している。Fidesz の政治家は事態の深刻さを感じており、情勢転換の方策を探っているが、いまのところ墓穴を掘る政策しか打ち出せていない。また、盲目的で熱狂的な Fidesz 活動家はマジャル・ピーテルの活動を妨害し、イャセンスキー元外務大臣襲撃のように反 Fidesz の知識人や政治家への攻撃を強めている。

Median 社による世論調査結果（2025 年 6 月 3-7 日）

マジャル・ピーテル率いる Tisza 党が政治の舞台に現れた 2024 年の欧州議会選挙では、Fidesz 支持が 26%、Tisza 支持は 18%だった。それから 1 年後の今月、Fidesz 支持は微増したが、Tisza のそれが倍増した結果、支持率は逆転し、Tisza 党が Fidesz を 10 ポイント離している。

とくに知識人層の高いブダペストでは、Fidesz の岩盤支持率 21%に変化はないが、Tisza のそれは 21%から 49%へと大幅に増えている。政権交代を望み、Tisza にその願いを託しているからである。同様に、県庁所在都市での支持率も、Fidesz は 3 ポイントしか増やせなかったのにたいし、Tisza のそれは 21%から 46%へとダントツの勢いで増えている。ブダペストおよび大都市での Fidesz の劣勢は明らかで、Tisza 党が Fidesz の倍以上の支持率を得ている。



中小都市でも同様の傾向が見られ、Tisza の支持率（34%）は Fidesz の支持率（28%）を上回っている。Tisza のそれは前年の倍増である。

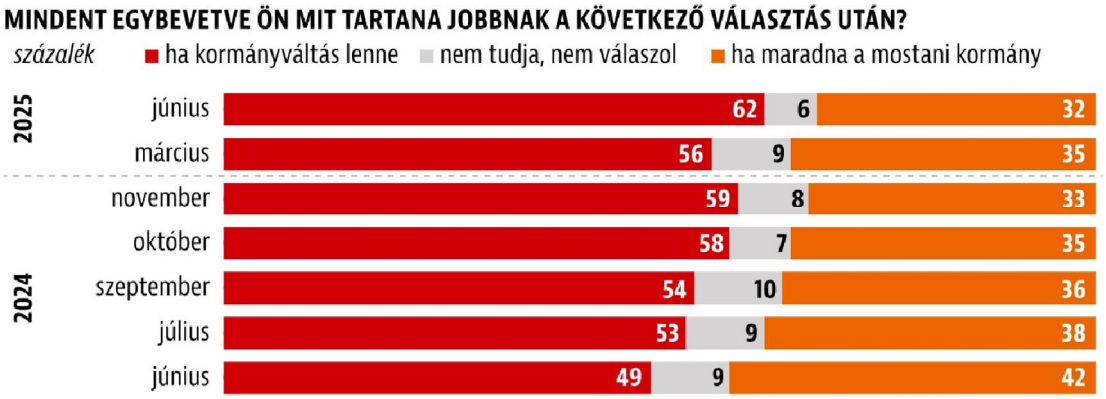
これまで Fidesz が圧倒的に強みを発揮していた町村では、Fidesz 支持率が 1 ポイント増えて 33%になったのにたいし、Tisza のそれは 14%から 32%へと倍増し、ほぼ Fidesz と拮抗するまでになった。

Fidesz の岩盤支持層である地方の市町村での不人気が高まっていることが観察される。

総じて、Fidesz には熱狂的な岩盤支持者層が存在し、とくに年配者や田舎の住民にはオルバン首相の熱狂的支持者が多く、ラーコシやカーダール時代に見られた個人崇拝的盲目主義が支配している。この Fidesz の金城湯地に、反オルバン反 Fidesz の政治的風潮が強まっていることが注目される。

政権交代への期待が強まっている

政権交代を望む声はどれほどあるのだろうか。以下の図は Median による各月の政権交代期待度を測ったものである。



昨年６月の段階では、交代を望む声（赤い傍線）が 49%、Fidesz 政権存続を望む声（橙色の傍線）が 42%と拮抗していたが、１年後の現在、政権交代を望む声は 62%にも達している。現政権支持は漸減している。

まさに Fidesz 政権が恐れている事態である。だから、形振り構わず、公金をふんだんに使って、「反ウクライナ」キャンペーンを張っているのだが、まともな国民はこの Fidesz の世論誘導手法に飽き飽きしている。それがこれほどまでの政権交代期待を生んでいる。

現在ところ、Fidesz 政権のキャンペーンや法改正による反政府メディア締上げの方策が、逆の効果を生んでいることが分かる。

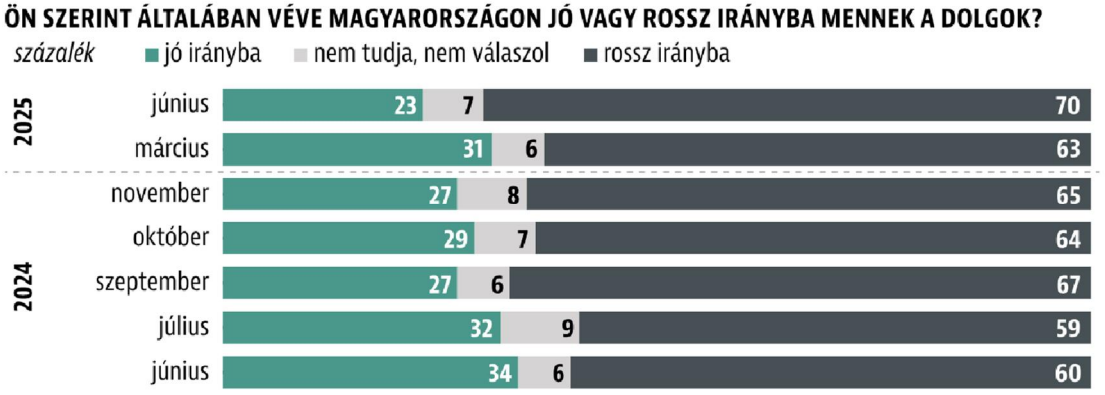
ハンガリーは好ましい方向へ向かっているのか

もう一つ興味深い調査は、国の行く末にたいする調査である。

はたして、ハンガリーは望ましい方向を歩んでいるのか、それとも間違った方向を歩んでいるのか。

下の図は、「良い方向に向かっている」（緑の傍線）、「悪い方向に向かっている」（黒の傍線）、「分からない」（灰色の傍線）と考える人々の変化をみたものである。

1年前に比べ、「良い方向に向かっている」と答えた人は 11 ポイント減少し、逆に悪い方向に向かっている答えた人は 10 ポイント増えている。



ハンガリーは親ロシア親プーチンだと言われるが、それは Fidesz の指導者について当てはまるだけである。一般国民が政府の政治姿勢を支持しているわけではない。